

令和2年度事業報告

新型コロナウイルス感染症の世界的規模での拡大という未曾有の事態に見舞われ、センターにおいては、変容の一年となりました。蔓延、収束が見えない状況下で事務所職員の出勤調整をし、テレワークを取り入れたり、会員の就業先に感染対策をお願いしたりと対応してきました。また、就業先での業務縮小等により就業の終了、短縮に対し、会員の就業機会の継続をお願いしてきたところです。

コロナ禍の中で、家族から就業の制限を受けたり、不安から退会を希望する会員も目立ちました。会員拡大を進めている中での長年センターを支えてきてくれた高齢会員の退会は、淋しさがああり、古き良きことを継承しながら新たな転換を迎えていく必要を切に感じました。

昨年から人生100年時代を見据え「健康維持」と「生きがい」「孤立防止」に向けて、焼津市が取り組む新元気世代プロジェクトの地域の担い手育成に参画。

「みつける」「つながる」「活かす」の視点でリーディング事業の一端を担い7つの事業を受託しました。緊急事態宣言の中で講座中止も危ぶまれましたが、東京と焼津を結ぶオンライン講座に切り替え挑戦しました。どうしたらできるか？を考えた結果やるを決めた瞬間。今後もコロナ禍の中での共生を考えていかなければなりません。企画提案していく事業は、会員の人財宝庫の焼津、常に異業種との連携を視野に繋がりを大切にしているセンターだからこそその魅力です。そして次年度への種まき、生きがい就労についての見直しをしながら、働き甲斐を含め今後の就業の提供、新たな分野の就業開拓、事業創出等検討をしてきました。

会員拡大と就業開拓は両輪ですが、新型コロナウイルス感染症の発生に伴い説明会の自粛等で計画全てが実行できず、また会員継続に向く足が遠のき増員の達成はできませんでした。そこには高齢者が働く、健康を気遣う家族からの声もありました。

女性会員拡大のための委員会も女性役員を中心に検討を重ねてきました。変容のための仕掛けを作ってきた一年でもありました。

そして、重篤事故の教訓を忘れず、役職員、会員共に安全就業と自身の健康管理を意識してきました。家族の笑顔を守るのも一人一人の心がけです。

今後も焼津市また市内の各種団体と連携し、地域の理解協力を得ながら更なる内容の充実を図ります。また、現役を引退した後も、就業等を通じて社会参加など地域で「居場所」と「出番」が得られることが生きがいとやりがいの充実、健康の保持に繋がるため引き続き進めてまいります。

最後に、焼津市シルバー人材センター事業の推進において、焼津市や国からのご理解ご支援をいただいていることに深く感謝申し上げます。